

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	未来に生きる健やかな子どもに対する大人の期待	現在の子ども達が抱えている課題(不登校など)の解決
	なぜ未来型能力か？	大人の期待が、直接に間接に未来の子ども達のあり方に貢献することは疑い得ない	未来の子ども達の健やかな成長を考えると、このような課題をどう解決するかがひとつの方向性となる。
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)		Kearney (2002) の不登校査定尺度の不登校行動の4つの機能カテゴリー、またはそれらを構成する質問項目に対する回答と、欠席、遅刻、早退数との相関を検証した。 ＜結果＞4つの機能カテゴリーに関しても、個別の不登校行動に関する質問項目においても、各学校の学年レベルで多くの有意な相関が認められた。このことから、不登校になって休んでいるもののみならず、登校しているものの中にも、多く不登校傾向の強いものが居ることが考えられる。これらの者達を同定し、対応を考えてゆくことが、予防の第1段階であろう。
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案・実施		以下、2.、3. に関しては、1. を今後2年間継続していった後、またはそれと平行して考え、実践し、評価してからでないと議論できない。本研究の継続を期すところである。
	育成カリキュラム実施の結果(当該領域のオリジナルデータ・知見)		同上
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	乳幼児の保護者に対して、子どもに対する期待を尋ねた。 ・男女(父母)ともに、子どもには健康で幸福に育てほしいと期待している者が多い。 ・男女(父母)別にみると、最も期待を寄せているものが、男性(父親)では幸福、女性(母親)では健康であり、多少の違いは認められた。 ・他方、特定の職業に就くことや能力や性格についてはあまり期待をしていなかった。	同上
	育成方法の提案・実施		同上
	育成カリキュラム実施の結果(当該領域のオリジナルデータ・知見)		同上